

## 発達障害に対する理解と対応 —「生徒指導提要」—

### 自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害が抱える課題

#### ① 自閉症

- 「他者との社会的関係の形成の困難さ」、「言葉の発達の遅れ」、「興味や関心が狭く特定のものにこだわること」を特徴としている。

○ 相手の気持ちを推し量ることや自分の言動の周りへの影響を把握することに難しさがあり、暗黙の了解や例え話、遠回しの表現など抽象度が高い内容の理解に困難さを抱える。また、先の見通しを持っていないことへの不安が強いため、予想外の出来事が多い学校生活では大きな不安感を抱えてしまうことがある。

#### ② 注意欠陥多動性障害

- 年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性を特徴とし、社会的な活動や学校生活を営む上で著しい困難を示す。

○ 自分の感情や行動をコントロールしきれずに無意識にとった行動が、結果として問題となる行動につながりやすいこともある。早合点やうっかりミス、不注意な誤りによる失敗も多く経験している。また、指示通りに活動できない、ルールや約束が守れないことは、友達関係の維持に影響する。注意や叱責を受ける機会が多いことは、自己評価や自己肯定感を下げる要因ともなる。

#### ③ 学習障害

- 全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す。

○ 課題は理解できても、学習の取組に成果を上げることに困難がある。できることと難しいことのギャップが大きいことも特徴であり、やる気の問題や努力不足と見られがちである。失敗経験の積み重ねは学習に対する自信や意欲の低下を招く。

